

令和5年度 介護福祉科1年

講義・演習・実習概要

旭川福祉専門学校

(1年講義概要目次)

	教科目	授業形態	単位数	必修・選択	期間	P
1	人間の尊厳と自立	講義	2	必修	後期	1
2	人間関係とコミュニケーション	講義	2	必修	前期	3
3	耕 生 活 動	講義	2	必修	前期	4
4	社会福祉概論	講義	4	必修	通年	5
5	社会保障論	講義	2	必修	通年	7
6	介護の基本 I	講義	4	必修	通年	8
7	コミュニケーションスキル	講義	4	必修	後期	10
8	生活支援技術 I	演習	4	必修	通年	12
9	生活支援技術 II	演習	2	必修	通年	15
10	介護過程	演習	1	必修	後期	17
11	介護総合演習 I	演習	2	必修	通年	21
12	介護実習 I・II	実習	5	必修	通年	23
13	介護実習計画					24
14	こころとからだのしくみ	講義	2	必修	前期	27
15	心理学	講義	2	必修	前期	28
16	医学・医療の知識	講義	2	必修	後期	29
17	医療的ケア I	講義	通年5	必修	後期	30
18	療育音楽	演習	1	必修	前期	32
19	東川スタイル/ コンディショニング	演習	1	必修	後期	33
20	地域支援活動 I	演習	3	必修	通年	36

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 人間の尊厳と自立	配当学年・時期 1年 後期	授業形態 講義	時間数 (単位数) 30 (2)	授業回数 15
担当教員 黒田 英敏	実務経験 あり	実務経験の概要 黒田：社会福祉協議会在宅福祉課にて8年間社会福祉士、介護支援専門員として高齢者福祉の実務に携わっていました。		

[授業の目的・ねらい]

- 人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える価値について理解します。「尊厳の保持」とは介護者である皆さんが利用者の方を「大切に価値ある存在」として介護する態度です。
- 介護場面における倫理的課題について介護福祉士として出来る態度を養う。

[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 人権尊重と福祉思想の系譜① ギリシアの博愛 (Philanthoropy) とユダヤ教の慈善 (Charity) 思想
- 2 人権尊重と福祉思想の系譜② キリスト教の隣人愛と慈善 (Charity, Caritas) 思想と国教化
- 3 人権尊重と福祉思想の系譜③ ルネッサンスと宗教改革

～近代を社会を生み出したイスラム教信仰と中国の発明～



- 4 人権尊重と福祉思想の系譜④ 市民革命を導いた3人の思想家

(トマス・ホッブス ジョン・ロック ジャン-ジャック・ルソー)

- 5 人権尊重と福祉思想の系譜⑤ 市民革命 (イギリス革命・アメリカ独立宣言・フランス革命)



- 6 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ① フローレンス・ナイチンゲール (イギリス)

～戦地での経験から、近代看護の専門性を確立～



- 7 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ② エイブラハム・リンカーンとハリエット

～南北戦争を終結させ奴隷解放宣言したアメリカ大統領～

- 8 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ③ メアリー・リッチモンド (Mary Richmond) とサリバン

～ヘレンケラーの家庭教師、リッチモンドに大きな影響を与えた人物～



9 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ④ キングス牧師とローザパークス

～アメリカの黒人差別と闘った2人～



10 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ⑤ ホロコーストとフランクル

～ナチス政権下での障害者殺害とユダヤ人殺害とフランクルらの生きる価値の戦い～



11 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ⑥ マザーテレサとガンジー

～インドで、貧しい人、死にゆく人へ愛を实践～



12 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ⑦ ホー・チ・ミンとベトナム戦争

～フランス・アメリカと闘いベトナムを独立に導く～



13 人権尊重に尽くした先覚者に学ぶ⑧ ネルソン・マンデラ

～南アフリカのアパルトヘイト（人種隔離政策）を撤廃させた人物～



14 尊厳をめぐる我が国の現状① ハンセン病と人権侵害について



15 尊厳をめぐる我が国の現状② 優生保護法について

～日本の優生保護法とらい予防法の廃止～

[使用するテキスト]

介護福祉士養成講座1 「人間の理解」

中央法規出版

【参考に読んでみよう】

「看護覚え書き」NOTES ON NURSING: WHAT IT IS, AND WHAT IT IS NOT. 1859

「夜と霧」フランクル (Viktor Emil Frankl) みすず書房

[単位認定の方法及び基準]

期末テストと授業ごとのレポート課題、平常点(出席点

、学習態度等)を総合し評価します。その配分は5:3

:2を基準とします。

100～80点 優 69～60点 可

79～70点 良 59点以下 不可

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 人間関係とコミュニケーション	配当学年・時期 1年 前期	授業形態 講 義	時間数 (単位数) 30 (2)	授業回数 15
担当教員 大友愛美	実務経験 有	実務経験の概要 障害者支援施設 (知的障害者) にて7年間ソーシャルワーカーとして勤務したのち障害者生活支援サービス事業所の代表兼ソーシャルワーカーとして16年間勤務し2010年よりNPO法人ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川にて副理事長兼障害者相談支援事業所相談支援専門員として勤務		
[授業の目的・ねらい] ・利用者や職員、家族などさまざまな場面での関係づくりのために身につけたいコミュニケーション技術の基礎を中心に、 自他尊重の人権感覚とコミュニケーション技術を身につける。				
[授業全体の内容の概要] ・介護が必要な人の人権の尊重など、介護福祉専門職として身につけるべき考え方について学ぶ。 ・対人援助職である介護福祉士が身につけるべき、対人援助技術としてのコミュニケーションについて学ぶ。 ・また、組織の一員として必要なコミュニケーションについて学ぶ。				
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・介護福祉士として身につけるべき価値観がどのようなものかがわかる ・介護に必要なコミュニケーションスキルの基礎を身につける ・知識だけでなく実際に日常生活で活用できる準備をする				
[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 講義の目的・授業の進め方・出席確認・評価方法・自己紹介 2. 人間の尊厳と人権・福祉理念① 人間の尊厳と利用者主体 3. 人間の尊厳と人権・福祉理念② 人権について考える 4. 人間と人間関係① 人間らしさと他者理解 5. 人間と人間関係② 発達心理学からみた人間関係 6. 人間と人間関係③ 社会心理学からみた人間関係 7. 人間と人間関係④ 人間関係とストレス 8. 対人関係とコミュニケーション① コミュニケーションの概念 9. 対人関係とコミュニケーション② コミュニケーションの手段 10. 対人援助関係とコミュニケーション① 対人援助の基本となるコミュニケーション 11. 対人援助関係とコミュニケーション② 対人援助における基本的態度 12. 対人援助関係とコミュニケーション③ 援助関係を形成する7つの原則 13. 組織におけるコミュニケーション① 組織のコミュニケーションの特徴 14. 組織におけるコミュニケーション② 組織で求められるコミュニケーション 15. まとめと復習				
[使用テキスト・参考文献] ・介護福祉士養成講座 人間の理解 中央法規		[単位認定の方法及び基準] 期末試験 (100%) ただし、レポート提出状況が悪い場合は試験の点数から減点 (10%以内) する可能性がある 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可		

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 耕生活動	配当学年・時期 1年 前期	授業形態 講義	時間数 (単位数) 30 (2)	授業回数 15
担当教員 黒田 英敏 富塚 稔 伊藤 義晃 長井 瑞希	実務経験	実務経験の概要		
[授業の目的・ねらい] 学校農園で作物を育てる過程の中で、グループ編成の方法、助ける心、協力する心、気づく心、感性を養い自分自身の心と向き合い成長することを目的に行う。 また、福祉従事者としての他者との協働する人間性を築き、チームアプローチを実践する。				
[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法] 1, 学校の周りの自然探索 ～春を探しに行こう～ 2, 学校の周りの自然探索 ～春を探しに行こう PART 2～ 3, 畑を作ろう！～各グループの農園を考える(グループ編成) 4, 畑を作ろう！！～土作り編 5, 畑を作ろう！！！～土作り編 6, 畑を作ろう！！！！～苗・種を植える 7, 畑の環境整備～苗を植える 8, 畑の環境整備 9, 畑の環境整備～収穫 10, 収穫祭 ～自分たちの育てた野菜で調理 11, 収穫祭 ～自分たちの育てた野菜で調理 12, Halloweenを楽しもう！ 13, Halloweenカボチャでジャック オウ ランタン作り 14, まとめ ～畑の片付け コンポスト作り～ 15, まとめ ～畑の片付け コンポスト作り～ 雨天時は、学校内で演習を行う。				
[使用テキスト・参考文献] 自分自身 学校農園 東川の自然		[単位認定の方法及び基準] 出席点、活動態度を考慮し、目標達成度によって評価する。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可		

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 社会福祉概論	配当学年・時期 1年前期・後期	授業形態 講義	時間数 (単位数) 60 (4)	授業回数 30
担当教員 野崎 哲也	実務経験 無	実務経験の概要		

[授業の目的・ねらい]

現代社会における社会福祉の概念・社会保障との関連を学び、社会環境の変化の中での対象の多様なニーズに応えるため、福祉専門職の必要性、制度や方法を知り、その活用について学ぶ。

[授業全体の内容概要]

社会福祉・地域福祉と介護福祉の関係性、必要性について学ぶ。
社会福祉の歴史、制度と実施体制、社会保障と関連制度について学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

1. 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解する。
2. 社会福祉の発達の過程と方向性を理解する。
3. 福祉サービスの提供方法と組織運営の原則を理解する。
4. 社会福祉従事者の現状及び専門職制度について理解し、連携の基盤を形成する。
5. 社会福祉をめぐるわが国及び諸外国の動向を理解する。

[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- | | | |
|----|-----------------|--------------------------------|
| 1 | 社会福祉とは何か | 社会福祉の概念と基本理念、社会福祉をめぐる動向と課題 |
| 2 | 社会福祉と社会保障 | 社会保障とは、公的扶助、社会手当 |
| 3 | 社会福祉と社会保障 | 社会保険 |
| 4 | 社会福祉の歴史 | イギリスの社会福祉 |
| 5 | 社会福祉の歴史 | アメリカの社会福祉 |
| 6 | 社会福祉の歴史 | 日本の社会福祉 |
| 7 | 私たちの暮らしと社会福祉 | 生活をめぐる動向と社会福祉の課題 |
| 8 | 生活困難者の福祉 | 生活困難者の実態、生活保護制度 |
| 9 | 生活困難者の福祉 | ホームレス支援、生活保護法・ホームレス支援の動向と課題 |
| 10 | 児童と家庭の福祉 | 児童の福祉をめぐる現状、基本理念、制度 |
| 11 | 児童と家庭の福祉 | 児童福祉の実施体制、新たな動向と今後の課題 |
| 12 | 児童と家庭の福祉 | 女性や家族の福祉をめぐる動向、基本理念、現状と課題 |
| 13 | 障がい者の福祉 | 障がいの定義、障がい者観と障がいの概念をめぐる動向 |
| 14 | 障がい者の福祉 | 障がい者福祉の基本理念、現状、障がい者福祉の法体系 |
| 15 | 障がい者の福祉 | 障がい者総合支援法、障がい者の社会参加と雇用、実施機関、課題 |
| 16 | 高齢者の福祉 | 高齢者をめぐる状況、高齢者福祉の基本理念 |
| 17 | 高齢者の福祉 | 高齢者福祉の諸制度 |
| 18 | 高齢者の福祉 | 高齢者福祉の新たな動向と今後の課題 |
| 19 | 地域福祉 | 地域の生活課題と福祉政策の動向 |
| 20 | 地域福祉 | 地域福祉の概念、地域福祉の方法 |
| 21 | 地域福祉 | 地域福祉計画と地域福祉活動計画、その他 |
| 22 | 社会福祉の法制度と実施のしくみ | 社会福祉の法体系 |
| 23 | 社会福祉の法制度と実施のしくみ | 社会福祉のしくみ、社会福祉の財政 |
| 24 | 社会福祉施設の体系と運営 | 社会福祉施設の体系 |
| 25 | 社会福祉施設の体系と運営 | 社会福祉施設による事業運営、社会福祉法人の運営と課題 |
| 26 | 社会福祉の担い手 | 社会福祉の専門職と専門性、社会福祉の専門職化 |
| 27 | 社会福祉の担い手 | 社会福祉関連専門職、社会福祉専門職をめぐる課題 |
| 28 | 社会福祉援助技術 | 社会福祉援助技術の意義、直接援助技術の内容 |

コマ数 29 社会福祉援助技術 間接援助技術の内容、社会福祉援助技術をめぐる課題 30 まとめ・振り返り 試験 (ペーパーテスト)	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座2 社会の理解 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 期末試験の結果により評価する。(100%) 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 社会保障論	配当学年・時期 1年前期	授業形態 講義	時間数(単位数) 30(2)	授業回数 15
担当教員 綱島 弘泰	実務経験 有	実務経験の概要 ・児童相談所、重症心身障害児者施設、在宅福祉サービス事業所にて生活相談員、管理者等の業務に携わる		
<p>[授業の目的・ねらい] わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。</p> <p>[授業全体の内容概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障の理念と意義・社会保障の体系・社会保障の各制度の概要・介護保険の概要 ・ わが国の民間保険制度の概要と公的施策の関係・社会保障の実施体制 </p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 日本の社会保障制度のしくみを理解し、生活を支える福祉、社会保障の関わりについて理解する。</p>				
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>前期</p> <p>1講 生活を幅広くとらえる 2講 生活の基本機能 3講 ライフスタイルの変化 4講 家族の機能と役割 5講 地域・地域社会 6講 地域社会における生活支援 7講 地域福祉の発展 8講 地域共生社会 9講 地域包括ケア 10講 社会保障の基本的な考え方 11講 日本の社会保障制度の発達 12講 日本の社会保障制度のしくみ 13講 日本の社会保障制度の体系 14講 現代社会と社会保障制度 15講 社会保障制度のまとめ</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座 社会の理解 中央法規出版 ※ 参考資料は必要に応じて配布します</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 前期試験、後期試験の点数、平常点(出席点、学習態度等)を総合し評価する。尚、その配分は9:1を基準とする。 100~80点 優 69~60点 可 79~70点 良 59点以下 不可</p>		

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 介護の基本 I	配当学年・時期 1年前・後期	授業形態 講義	時間数 (単位数) 60 (4)	授業回数 30																																																																																																									
担当教員 富塚 稔	実務経験 有	実務経験の概要 障害者支援施設において7年介護福祉士として、介護(生活支援)に携わっていた。																																																																																																											
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。 ・幸せ実現の援助者としての介護福祉士の役割を理解する。 ・介護における安全、チームケアについて理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活障害の理解のために学生自らが生活者であることを自覚させる。テキストの学習だけでなく、積極的に地域に生活している人々への理解を深めていく事を課題とする。 <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活に視点をおいた介護(生活支援)の在り方が理解できる。 ・介護実践において他職種との連携が必須であることと、その中における介護福祉士の役割がわかる。 ・介護展開プロセスがわかる。 																																																																																																													
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">1</td> <td style="width: 15%;">ガイダンス</td> <td style="width: 65%;">介護の基本を学ぶ目的と学ぶ姿勢について</td> <td style="width: 10%;">介護の基本と他教科目との関連について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活の理解</td> <td>生活からイメージすることを、学生の発言や意見から、対象・人間関係・活動・職種等に整理する①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>介護とは何か</td> <td>介護という用語からイメージすることを、学生の発言や意見から、対象・人間関係・活動・職種等に整理する②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>介護の概念</td> <td>尊厳を支える介護</td> <td>生命の誕生から考える 介護の定義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>介護の概念</td> <td>尊厳を支える介護</td> <td>人間の幸せについて考える 介護の視点、専門性</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>介護の歴史</td> <td>介護福祉士を取り巻く状況</td> <td>社会的変遷～人口構造、高齢化社会</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>介護の歴史</td> <td>介護福祉士を取り巻く状況</td> <td>ライフサイクル、家族形態の変化</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>介護の歴史</td> <td>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ</td> <td>介護職の誕生</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>介護の歴史</td> <td>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ</td> <td>介護の社会化～介護保険制度まで</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>介護を必要とする人の理解</td> <td colspan="2">人間の理解～発達</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>介護を必要とする人の理解</td> <td colspan="2">健康の段階の理解と介護の役割</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>介護を必要とする人の理解</td> <td colspan="2">生活上障害を持つ事とは(身体的、精神的特徴 加齢)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>介護を必要とする人の理解</td> <td colspan="2">生活上障害を持つ事とは(身体障害 知的障害)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>介護を必要とする人の理解</td> <td colspan="2">生活習慣と行動様式の理解～生活史を知る</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>介護を必要とする人の理解</td> <td colspan="2">グループワーク「高齢者の行動様式の背景(生活史)をとらえる」</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>介護実践における連携</td> <td>関連法規の理解</td> <td>介護と看護、家政①</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>介護実践における連携</td> <td>関連法規の理解</td> <td>介護と看護、家政②</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>介護実践における連携</td> <td colspan="2">関連職種の業務、役割の理解と連携の重要性①</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>介護実践における連携</td> <td colspan="2">関連職種の業務、役割の理解と連携の重要性②</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>介護従事者の倫理</td> <td colspan="2">福祉従事者としての倫理</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>介護従事者の倫理</td> <td colspan="2">社会福祉士、介護福祉士法 社会人としてのルール</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>介護者の援助と役割</td> <td>援助の基本原則～利用者主体</td> <td>生命及び人権尊重 自立支援など</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>介護者の援助と役割</td> <td colspan="2">援助者の役割～チームケアによる生活支援を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td colspan="4">自立支援、ICFの考え方</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>介護過程 I</td> <td>介護過程の目的</td> <td>問題解決思考～介護活動に必要な思考プロセス 科学的根拠の必要性</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>介護過程 II</td> <td>日常生活における問題解決プロセスの理解</td> <td>～学生の日常生活の中から起こりやすい事例を提示して、プロセス理解を深める①</td> </tr> </table>					1	ガイダンス	介護の基本を学ぶ目的と学ぶ姿勢について	介護の基本と他教科目との関連について	2	生活の理解	生活からイメージすることを、学生の発言や意見から、対象・人間関係・活動・職種等に整理する①		3	介護とは何か	介護という用語からイメージすることを、学生の発言や意見から、対象・人間関係・活動・職種等に整理する②		4	介護の概念	尊厳を支える介護	生命の誕生から考える 介護の定義	5	介護の概念	尊厳を支える介護	人間の幸せについて考える 介護の視点、専門性	6	介護の歴史	介護福祉士を取り巻く状況	社会的変遷～人口構造、高齢化社会	7	介護の歴史	介護福祉士を取り巻く状況	ライフサイクル、家族形態の変化	8	介護の歴史	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	介護職の誕生	9	介護の歴史	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	介護の社会化～介護保険制度まで	10	介護を必要とする人の理解	人間の理解～発達		11	介護を必要とする人の理解	健康の段階の理解と介護の役割		12	介護を必要とする人の理解	生活上障害を持つ事とは(身体的、精神的特徴 加齢)		13	介護を必要とする人の理解	生活上障害を持つ事とは(身体障害 知的障害)		14	介護を必要とする人の理解	生活習慣と行動様式の理解～生活史を知る		15	介護を必要とする人の理解	グループワーク「高齢者の行動様式の背景(生活史)をとらえる」		16	介護実践における連携	関連法規の理解	介護と看護、家政①	17	介護実践における連携	関連法規の理解	介護と看護、家政②	18	介護実践における連携	関連職種の業務、役割の理解と連携の重要性①		19	介護実践における連携	関連職種の業務、役割の理解と連携の重要性②		20	介護従事者の倫理	福祉従事者としての倫理		21	介護従事者の倫理	社会福祉士、介護福祉士法 社会人としてのルール		22	介護者の援助と役割	援助の基本原則～利用者主体	生命及び人権尊重 自立支援など	23	介護者の援助と役割	援助者の役割～チームケアによる生活支援を学ぶ		24	自立支援、ICFの考え方				25	介護過程 I	介護過程の目的	問題解決思考～介護活動に必要な思考プロセス 科学的根拠の必要性	26	介護過程 II	日常生活における問題解決プロセスの理解	～学生の日常生活の中から起こりやすい事例を提示して、プロセス理解を深める①
1	ガイダンス	介護の基本を学ぶ目的と学ぶ姿勢について	介護の基本と他教科目との関連について																																																																																																										
2	生活の理解	生活からイメージすることを、学生の発言や意見から、対象・人間関係・活動・職種等に整理する①																																																																																																											
3	介護とは何か	介護という用語からイメージすることを、学生の発言や意見から、対象・人間関係・活動・職種等に整理する②																																																																																																											
4	介護の概念	尊厳を支える介護	生命の誕生から考える 介護の定義																																																																																																										
5	介護の概念	尊厳を支える介護	人間の幸せについて考える 介護の視点、専門性																																																																																																										
6	介護の歴史	介護福祉士を取り巻く状況	社会的変遷～人口構造、高齢化社会																																																																																																										
7	介護の歴史	介護福祉士を取り巻く状況	ライフサイクル、家族形態の変化																																																																																																										
8	介護の歴史	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	介護職の誕生																																																																																																										
9	介護の歴史	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	介護の社会化～介護保険制度まで																																																																																																										
10	介護を必要とする人の理解	人間の理解～発達																																																																																																											
11	介護を必要とする人の理解	健康の段階の理解と介護の役割																																																																																																											
12	介護を必要とする人の理解	生活上障害を持つ事とは(身体的、精神的特徴 加齢)																																																																																																											
13	介護を必要とする人の理解	生活上障害を持つ事とは(身体障害 知的障害)																																																																																																											
14	介護を必要とする人の理解	生活習慣と行動様式の理解～生活史を知る																																																																																																											
15	介護を必要とする人の理解	グループワーク「高齢者の行動様式の背景(生活史)をとらえる」																																																																																																											
16	介護実践における連携	関連法規の理解	介護と看護、家政①																																																																																																										
17	介護実践における連携	関連法規の理解	介護と看護、家政②																																																																																																										
18	介護実践における連携	関連職種の業務、役割の理解と連携の重要性①																																																																																																											
19	介護実践における連携	関連職種の業務、役割の理解と連携の重要性②																																																																																																											
20	介護従事者の倫理	福祉従事者としての倫理																																																																																																											
21	介護従事者の倫理	社会福祉士、介護福祉士法 社会人としてのルール																																																																																																											
22	介護者の援助と役割	援助の基本原則～利用者主体	生命及び人権尊重 自立支援など																																																																																																										
23	介護者の援助と役割	援助者の役割～チームケアによる生活支援を学ぶ																																																																																																											
24	自立支援、ICFの考え方																																																																																																												
25	介護過程 I	介護過程の目的	問題解決思考～介護活動に必要な思考プロセス 科学的根拠の必要性																																																																																																										
26	介護過程 II	日常生活における問題解決プロセスの理解	～学生の日常生活の中から起こりやすい事例を提示して、プロセス理解を深める①																																																																																																										

<p>27 介護過程Ⅱ 日常生活における問題解決プロセスの理解 ～学生の日常生活の中から起こりやすい事例を提示して、プロセス理解を深める②</p> <p>28 介護過程Ⅲ 構成要素－アセスメント、計画立案、実施、評価</p> <p>29 介護サービス ケアプランの実際を事例から学ぶ（実習報告会事例等）</p> <p>30 介護サービス ケアプランの実際を事例から学ぶ（実習報告会事例等）試験（ペーパー）</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成講座第3巻 介護の基本Ⅰ 第2版 中央法規</p> <p>介護福祉士養成講座第4巻 介護の基本Ⅱ 第2版 中央法規</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①出席状況・授業への取り組み姿勢 20点満点</p> <p>②レポートなどの記録・提出物 20点満点</p> <p>③中間・期末のテスト 60点満点</p> <p>①、②、③を総合して評価する。</p> <p>100～80点 優 69～60点 可</p> <p>79～70点 良 59点以下 不可</p>

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 コミュニケーションスキル	配当学年・時期 1年後期 2年前期	授業形態 講 義	時間数 (単位数) 60 (4)	授業回数 30
担当教員 大友愛美	実務経験 有	実務経験の概要 障害者支援施設 (知的障害者) にて7年間ソーシャルワーカーとして勤務したのち障害者生活支援サービス事業所の代表兼ソーシャルワーカーとして16年間勤務し2010年よりNPO法人ノーマライゼーションサポートセンターこころんく東川にて副理事長兼障害者相談支援事業所相談支援専門員として勤務		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として必要な、利用者、家族、職員同士でのコミュニケーションの必要性と基本的なコミュニケーション技術の習得を目指す。 ・コミュニケーション障害に応じた適切な介護を提供するために、障害特性の理解にもとづいたコミュニケーション技術の習得を目指す。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴・共感・受容を軸にコミュニケーションの基本技術を学ぶ ・家族支援の必要性を踏まえたうえでコミュニケーションの基本技術の活用について学ぶ ・障害別にコミュニケーション支援について学ぶ ・チーム支援の必要性と職場で必要なコミュニケーション技術について学ぶ <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・態度に関する基本技術を理解し必要に応じて使えるようになる ・家族支援の必要性を正しく理解する ・コミュニケーション障害と関連する障害特性を理解する ・チームで仕事をする必要性について理解する 				
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション/コミュニケーションの基本① 介護におけるコミュニケーションとは 2. コミュニケーションの基本② 介護におけるコミュニケーションの対象 3. コミュニケーションの基本技術① 態度に関する基本技術1) 傾聴 4. コミュニケーションの基本技術② 態度に関する基本技術2) 共感と受容 5. コミュニケーションの基本技術③ 態度に関する基本技術3) 質問の技法 6. コミュニケーションの基本技術④ 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 7. コミュニケーションの基本技術⑤ 目的別のコミュニケーション1) 動機づけ 8. コミュニケーションの基本技術⑥ 目的別のコミュニケーション2) リフレーミング 9. コミュニケーションの基本技術⑦ 目的別のコミュニケーション3) 意思決定支援の必要性 10. コミュニケーションの基本技術⑧ 目的別のコミュニケーション4) 意思決定支援の実際 11. コミュニケーションの基本技術⑨ 集団におけるコミュニケーション技術 12. 家族とのコミュニケーション① 家族との関係づくり 13. 家族とのコミュニケーション② 家族への助言・指導・調整 14. 家族とのコミュニケーション③ 家族関係と介護ストレスへの対応 15. 前半の評価 (試験) 16. 特性に応じたコミュニケーション① コミュニケーション障害への対応の基本 17. 特性に応じたコミュニケーション② コミュニケーション障害をイメージする 18. 特性に応じたコミュニケーション③ さまざまなコミュニケーション障害 視覚障害・聴覚障害 19. 特性に応じたコミュニケーション④ さまざまなコミュニケーション障害 構音障害 20. 特性に応じたコミュニケーション⑤ さまざまなコミュニケーション障害 失語症 21. 特性に応じたコミュニケーション⑥ さまざまなコミュニケーション障害 認知症 22. 特性に応じたコミュニケーション⑦ さまざまなコミュニケーション障害 精神疾患 23. 特性に応じたコミュニケーション⑧ さまざまなコミュニケーション障害 知的障害・重症心身障害 24. 特性に応じたコミュニケーション⑨ さまざまなコミュニケーション障害 発達障害 25. 特性に応じたコミュニケーション⑩ さまざまなコミュニケーション障害 高次脳機能障害 26. チームのコミュニケーション① 報告・連絡・相談の技術 				

- 27. チームのコミュニケーション② 記録の技術
- 28. チームのコミュニケーション③ 会議・議事進行・説明の技術
- 29. チームのコミュニケーション④ 事例検討に関する技術
- 30. チームのコミュニケーション⑤ 情報の活用と管理のための技術

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術
中央法規

[単位認定の方法及び基準]

授業ごとに提出する課題 10%
 中間試験と期末試験の合計 90%
 100～80点 優 69～60点 可
 79～70点 良 59点以下 不可

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 生活支援技術 I	配当学年・時期 1年 前後期・2年 前期	授業形態 演習	時間数 (単位数) 150 (5)	授業回数 75
担当教員 富塚 稔 硯 明美 石崎 美幸 長井 瑞希 伊藤 義晃	実務経験 有 有 有 有 有	実務経験の概要 富塚：障害者支援施設において介護福祉士として、介護業務に従事していた。 硯：障害者支援施設において介護福祉士として介護業務に従事していた。 石崎：看護師として、訪問看護ステーション、認知症対応型共同生活介護などの在宅サービスの実践に携わっていた。 長井：認知症対応型共同生活介護で、介護福祉士として介護業務に従事していた。 伊藤：高齢者福祉施設において介護福祉士として、介護業務・相談援助業務に従事していた。		

[授業の目的・ねらい]

・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

・介護福祉士が行う生活支援の意義と目的、ICFの視点、利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方を学ぶ

・住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内環境のあり方などを学ぶ

・あらゆる生活行為の基本となる「移動」について、自立した移動の一連の流れを理解したうえで、移動・移乗における具体的な介護技術を学ぶ。

・生活支援における福祉用具の重要性、適切な福祉用具を選ぶための視点などを学ぶ。

・調理、洗濯、裁縫などの具体的な家事支援における介護技術を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・生活支援技術の原理を理解し、その技術を習得する。

・生活支援技術に適した環境について学ぶ。

[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 オリエンテーション 生活支援技術を学ぶ心得・実習室の使い方
- 2 生活支援の理解 生活支援の基本的な考え方 生活支援と介護過程 生活支援とチームアプローチ
- 3 住宅環境の整備 住まいの役割と機能 生活空間 快適な室内環境 安全に暮らすための生活環境
- 4 住宅環境の整備 高齢者・障害者の住まい 居住環境の整備における多職種との連携
- 5 福祉用具の意義 生活支援における福祉用具の重要性
- 6 福祉用具の意義 福祉用具の種類
- 7 福祉用具の意義 適切な福祉用具を選ぶための視点
- 8 自立に向けた家事の介護 自立した家事とは
- 9 自立に向けた家事の介護 自立した家事とは
- 10 自立に向けた家事の介護 自立に向けた家事の介護
- 11 自立に向けた家事の介護 自立に向けた家事の介護
- 12 自立に向けた家事の介護 自立に向けた家事の介護
- 13 自立に向けた家事の介護 自立に向けた家事の介護
- 14 自立に向けた家事の介護 自立に向けた家事の介護
- 15 自立に向けた家事の介護 家事の介護における多職種との連携
- 16 災害時における生活支援 被災地で活躍する際の心構え 災害時における生活支援
- 17 振り返り
- 18 自立に向けた移動の介護 体位と移動 ボディメカニクスについての理解 体位の名称
- 19 自立に向けた移動の介護 体位と移動 演習 体位変換 (水平移動・仰臥位・側臥位)
- 20 自立に向けた移動の介護 振り返り 体位変換

21	自立に向けた移動の介護	振り返り	体位変換
22	自立に向けた移動の介護	体位と移動	車いすの種類と名称 散歩時の観察と注意点
23	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 基本的な車いすの操作方法
24	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 ティルトリクライニング車いす・足漕ぎ車いすの操作方法
25	自立に向けた移動の介護	体位と移動	歩行介助 歩行動作のメカニズム 杖の種類
26	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 歩行介助
27	自立に向けた移動の介護	振り返り	
28	自立に向けた移動の介護	振り返り	
29	自立に向けた移動の介護	振り返り	
30	自立に向けた移動の介護	第一期実習の振り返り	
31	自立に向けた移動の介護	第一期実習の振り返り	
32	自立に向けた移動の介護	第一期実習の振り返り	
33	自立に向けた移動の介護	体位と移動	同一体位の障害 体位変換の必要性
34	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 仰臥位から端座位
35	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 全介助の移動 引き上げ介助
36	自立に向けた移動の介護	排泄介助	排泄自立のための福祉用具
37	自立に向けた移動の介護	排泄介助	排泄に関する福祉用具 (紙おむつ・パッドの吸収率について)
38	自立に向けた移動の介護	排泄介助	排泄に関する福祉用具 (紙おむつ・パッドの吸収率について)
39	自立に向けた移動の介護	排泄介助	排泄に関する福祉用具 (紙おむつ・パッドの吸収率について)
40	自立に向けた移動の介護	第二期実習の振り返り	
41	自立に向けた移動の介護	第二期実習の振り返り	
42	自立に向けた移動の介護	第二期実習の振り返り	
43	自立に向けた移動の介護	振り返り	
44	自立に向けた移動の介護	振り返り	
45	自立に向けた移動の介護	振り返り	
46	自立に向けた移動の介護	2年次	オリエンテーション
47	自立に向けた移動の介護	2年次	オリエンテーション
48	自立に向けた移動の介護	着脱の介助	自立支援に向けた着脱の福祉用具の活用
49	自立に向けた移動の介護	体位と移動	褥瘡のメカニズム
50	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 安楽な体位の実際 (仰臥位・側臥位) 尖足予防
51	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 安楽な体位の実際 (仰臥位・側臥位) 尖足予防
52	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 安楽な体位の実際 (仰臥位・側臥位) 尖足予防
53	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 安楽な体位の実際 (褥法)
54	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 在宅での体位変換
55	自立に向けた移動の介護	体位と移動	動作別に見た福祉用具 演習 リフトを使った移動・移乗
56	自立に向けた移動の介護	体位と移動	動作別に見た福祉用具 演習 スライディングボード・シート
57	自立に向けた移動の介護	食事介助	与薬についての基礎知識
58	自立に向けた移動の介護	体位と移動	車いすによる社会生活の維持・拡大の技法
59	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習の計画
60	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習の計画
61	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習の実施
62	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習の実施
63	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習の実施
64	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習のまとめ
65	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習のまとめ
66	自立に向けた移動の介護	体位と移動	演習 車いすで街を体験する学外学習のまとめ
67	自立に向けた移動の介護	第三期実習の振り返り	
68	自立に向けた移動の介護	第三期実習の振り返り	
69	自立に向けた移動の介護	第三期実習の振り返り	
70	自立に向けた移動の介護	排泄介助	自然排泄への援助 (排泄困難・便秘・下痢・失禁)
71	自立に向けた移動の介護	排泄介助	自然排泄への援助 (排泄困難・便秘・下痢・失禁)

72	自立に向けた移動の介護	緊急時の介護	事故者発見時の観察と応急手当	演習	応急手当
73	自立に向けた移動の介護	緊急時の介護	事故者発見時の観察と応急手当	演習	包帯の巻き方
74	自立に向けた移動の介護	振り返り			
75	自立に向けた移動の介護	振り返り			
試験（ペーパーテスト・実技テスト）					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
介護福祉士養成講座第6巻	生活支援技術Ⅰ		各学期末の試験（実技試験・ペーパー試験）、各単元のレポート課題、平常点（出席点、演習態度等）を総合し評価する。		
介護福祉士養成講座第7巻	生活支援技術Ⅱ		尚、その配分は7：2：1を基準とする。		
介護福祉士養成講座第8巻	生活支援技術Ⅲ		100～80点	優	69～60点
	中央法規		79～70点	良	59点以下
					不可

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 生活支援技術Ⅱ	配当学年・時期 1年 前後期・2年前期	授業形態 演習	時間数 (単位数) 90 (3)	授業回数 45
担当教員 富塚 稔 硯 明美 石崎 美幸 長井 瑞希 伊藤 義晃	実務経験 有 有 有 有 有	実務経験の概要 富塚：障害者支援施設において介護福祉士として、介護業務に従事していた。 硯：障害者支援施設において介護福祉士として介護業務に従事していた。 石崎：看護師として、訪問看護ステーション、認知症対応型共同生活介護などの在宅サービスの実践に携わっていた。 長井：認知症対応型共同生活介護で、介護福祉士として介護業務に従事していた。 伊藤：高齢者福祉施設において、介護福祉士として介護業務・相談援助業務に従事していた。		

[授業の目的・ねらい]

・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

- ・自立した身じたくの一連の流れを理解したうえで、利用者の状態に応じた身じたくの介助の方法を学ぶ。
- ・介護の基本原則にのっとった食事の介護、利用者の状態に応じた食事の介助、誤嚥の予防のための支援、食後の口腔ケアなどを学ぶ。
- ・自立した入浴の一連の流れを理解したうえで、具体的な入浴と清潔保持の介助方法を学ぶ。
- ・トイレやポータブルトイレでの排泄の介助方法、自立でのパッド交換、オムツを使用した排泄の介助などを学ぶ。
- ・休息・睡眠状況を整えるためのベッドメイキングの方法を学ぶ。
- ・人生の最終段階におけるケアの意味や死をむかえる人の介護、亡くなったあとの介護を学ぶ。
- ・外傷や骨折、窒息などの際に、どのように応急手当や緊急時対応を行えば良いか学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ・生活支援技術の原理を理解し、その技術を習得する。
- ・生活支援技術に適した環境について学ぶ。

[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- | | | | |
|----|---------------|----|------------------------|
| 1 | 休息・睡眠の介護 | 演習 | ベッドメイキング |
| 2 | 休息・睡眠の介護 | 演習 | ベッドメイキング |
| 3 | 休息・睡眠の介護 | 演習 | ベッドメイキング |
| 4 | 休息・睡眠の介護 | 演習 | ベッドメイキング |
| 5 | 休息・睡眠の介護 | 演習 | ベッドメイキング |
| 6 | 自立に向けた食事の介護 | 演習 | コミュニケーション |
| 7 | 自立に向けた食事の介護 | 演習 | ベッド上での食事の場面のコミュニケーション |
| 8 | 自立に向けた食事の介護 | 演習 | ベッド上での食事の場面のコミュニケーション |
| 9 | 自立に向けた身じたくの介護 | 演習 | 片麻痺者に対する、ベッド上でのパジャマの交換 |
| 10 | 自立に向けた身じたくの介護 | 演習 | 片麻痺者に対する、座位でのパジャマの交換 |
| 11 | 自立に向けた身じたくの介護 | 演習 | 片麻痺者に対する、靴下の介助 |
| 12 | 自立に向けた食事の介護 | 演習 | 座位での食事介助 |
| 13 | 自立に向けた排泄の介護 | | 排泄介助の基礎知識 |
| 14 | 自立に向けた排泄の介護 | 演習 | 紙おむつ・パッドの交換 |
| 15 | 自立に向けた排泄の介護 | 演習 | 紙おむつ・パッドの交換 |
| 16 | 自立に向けた排泄の介護 | 演習 | 片麻痺者へのトイレの一部介助 |
| 17 | 自立に向けた排泄の介護 | 演習 | 片麻痺者へのトイレの一部介助 |

18	自立に向けた排泄の介護	演習	布オムツの交換
19	自立に向けた排泄の介護	演習	便器・尿器・差し込み便器の介助
20	自立に向けた排泄の介護	演習	ポータブルトイレの介助 トイレの全介助
21	振り返り		
22	振り返り		
23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	機械浴による入浴介助の方法
24	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	機械浴による入浴介助の方法
25	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	機械浴による入浴介助の方法
26	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	家庭浴による入浴介助の方法
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	家庭浴による入浴介助の方法
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	家庭浴による入浴介助の方法
29	休息・睡眠の介護	演習	利用者が寝たままでのシーツの交換
30	休息・睡眠の介護	演習	利用者が寝たままでのシーツの交換
31	自立に向けた身したくの介護	演習	浴衣の交換
32	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	頭皮の清潔保持の方法
33	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	頭皮の清潔保持の方法
34	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	部分的な清潔保持 爪・髭・耳・鼻
35	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	部分的な清潔保持 爪・髭・耳・鼻
36	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	口腔の清潔 清潔保持の目的 義歯の手入れ
37	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	歯磨き うがい
38	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	歯磨き うがい
39	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	部分的な清潔保持 手浴
40	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	部分的な清潔保持 足浴
41	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	部分的な清潔保持 目
42	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	全身清拭
43	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	全身清拭
44	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	振り返り
45	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	演習	振り返り
	試験（ペーパーテスト・実技テスト）		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
介護福祉士養成講座第6巻	生活支援技術Ⅰ	各学期末の試験（実技試験・ペーパー試験）、各単元のレポート課題、平常点（出席点、演習態度等）を総合し評価する。尚、その配分は7：2：1を基準とする。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可	
介護福祉士養成講座第7巻	生活支援技術Ⅱ		
介護福祉士養成講座第8巻	生活支援技術Ⅲ		
	中央法規		

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 かいごかてい 介護過程	配当学年・時期 1年後期・2年前期後期	授業形態 演習	時間数(単位数) 150時間(5単位)	授業回数 75(1年生で15回 2年生で60回)
担当教員 くろだひでとし 黒田英敏	実務経験 有	実務経験の概要 黒田：社会福祉協議会在宅福祉課にて8年間社会福祉士、介護支援専門員として高齢者福祉の実務に携わっていた。		

[授業の目的・ねらい]

「介護過程」は利用者の方にもっともふさわしい介護を行うための学習です。そのためには利用者の方を①「よく理解すること」です。②利用者の方の「思い」を受けとめ、「願い」が叶えられる「介護の計画」を作ります。③その「介護計画」にもとづいて介護させていただきます。さらにもっと利用者の方がよろこばれ、「これこそ私の(望む)介護です」と仰る介護に手直しします。この過程(プロセス)が「介護過程」です。

[授業全体の内容の概要]

1年生で介護過程の意義と内容を学習します。第2期介護実習で学習を深めます。
2年生では実際に実習先で「介護過程」を行います。
実習で展開した「介護計画」を学校に持ち帰り、さらにクラスメイトと検討を重ねます。「介護過程」の学習のまとめは、「卒業演習発表会」で介護福祉科全員で検討し「卒業演習記録集」にまとめます。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・介護過程の意義を理解して、展開(情報を集める 計画を作ったり 実施したり 評価したりすること)を
実践(実際に行うことが)できる
- ・介護過程の展開においてチームで協働(意見を伝え合ったり、検討したり、共に介護サービスを行ったり)できる

[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1年次

- 1 オリエンテーション 大切な介護過程
- 2 介護過程の4つの内容(①情報を集める ②計画する ③実施する ④評価する)
- 3 介護過程と介護実習(実習の中で学ぶ介護過程)
- 4 介護過程①情報を集めてみよう アセスメント
- 5 アセスメントは「観察」
- 6 アセスメントは利用者のかたを思うこと 「想像力は創造力」
- 7 どの情報が大切? 情報の整理と情報から分かること

- 8 介護に必要な「情報」と情報の意味
- 9 先輩の介護計画から学ぼう① 情報の集め方
- 10 先輩の介護計画から学ぼう② 介護の課題と目標
- 11 先輩の介護計画から学ぼう③ 介護計画
- 12 先輩の介護計画から学ぼう④ 利用者の方によるこばれる介護を計画しよう
- 13 実習で介護過程を学ぼう①
- 14 実習で介護過程を学ぼう②
- 15 1年生のまとめ 2年生の介護過程について
- 2年次で実施
- 16 オリエンテーション 介護過程の4つの内容 (①情報を集める ②計画する ③実施する ④評価する)
- 17 ①情報を集める アセスメントのプロセスを理解する
- 18 ①アセスメントで集める情報はどんな内容か
- 19 ①アセスメントするためのツール「利用者理解」を使ってみる 基本情報の書き方、集め方
- 20 ①アセスメントするためのツール「利用者理解」を使ってみる 基本情報の書き方、集め方
- 21 ①アセスメントするためのツール「利用者理解」を使ってみる 30項目とICF
- 22 ①アセスメントするためのツール「利用者理解」を使ってみる 30項目とICF
- 23 ①アセスメントするためのツール「利用者理解」を使ってみる 30項目とICF
- 24 ①アセスメントするためのツール「この人こんな人」シートを使ってみる
 ～ 集めた情報でその人の全体を理解する ～
- 25 ①アセスメントするためのツール「この人こんな人」シートを使ってみる
 ～ 集めた情報でその人の全体を理解する ～
- 26 ②利用者の方の課題を見つけよう その方の課題ってなに? 課題は問題ではありません
- 27 ②利用者の方の課題を見つけよう 課題分析シートの使い方
- 28 ②利用者の方の課題を見つけよう 課題分析シートでの演習
- 29 ②利用者の方の課題を見つけよう 課題分析シートでの演習
- 30 ②介護計画の目標を考えよう 目標ってなに?
- 31 ②長期目標と短期目標
- 32 ②長期目標と短期目標

- 33 ②さあ、いよいよ「具体的な支援内容」を考えよう
- 34 ②「具体的な支援内容」の書き方、考え方
- 35 ②「具体的な支援内容」の書き方、考え方
- 36 ③「介護計画」を実施する準備と方法
- 37 ③「介護計画」を実施する準備と方法
- 38 ④「介護計画」を実施した後に 見直しと評価
- 39 第3期介護実習で介護過程を展開しよう
- 40 第3期介護実習での介護過程の準備 スケジュールの理解とツールの理解
- 41 第3期介護実習での介護過程の準備 ツールの理解と演習
- 42 第3期介護実習での介護過程の準備 ツールの理解と演習
- 43 実習後の記録の整理① アセスメントシートの整理
- 44 実習後の記録の整理② 情報の整理と分析 集めた情報の意味を調べる
- 45 実習後の記録の整理② 情報の整理と分析 医療情報、介護情報を調べる
- 46 実習後の記録の整理② 情報の整理と分析 医療情報、介護情報を調べる
- 47 卒業演習 小グループに分かれて「事例紹介」を検討する まず対象者の方を「紹介」する
- 48 卒業演習 小グループの検討 対象者の方の入所までの生活歴を「紹介」する
- 49 卒業演習 小グループの検討 対象者の方の入所後の生活状況を「紹介」する
- 50 卒業演習 小グループの検討 対象者の方の「事例紹介」を検討する
- 51 卒業演習 小グループの検討 クラスメイトの対象者の方の「事例紹介」を検討する
- 52 卒業演習 小グループの検討 クラスメイトの対象者の方の「事例紹介」を検討する
- 53 卒業演習 大グループでの検討 対象者の方の「事例紹介」を検討する
- 54 卒業演習 大グループでの検討 対象者の方の「課題」を検討する
- 55 卒業演習 大グループでの検討 対象者の方の「目標と援助内容」を検討する
- 56 卒業演習 大グループでの検討 クラスメイトの「介護計画」を検討する
- 57 卒業演習 大グループでの検討 クラスメイトの「介護計画」を検討する

58 卒業演習 大グループでの検討	クラスメイトの「介護計画」を検討する
59 卒業演習 大グループでの検討	クラスメイトの「介護計画」を検討する
60 卒業演習 大グループでの検討	クラスメイトの「介護計画」を検討する
61 卒業演習 発表会の発表原稿をワープロ入力する	
62 卒業演習 発表会の発表原稿をワープロ入力する	
63 卒業演習 発表会をクラス全員で準備する	
64 卒業演習 発表会をクラス全員で準備する	
65 卒業演習 発表会でクラス全員の「介護計画」	を検討する
66 卒業演習 発表会でクラス全員の「介護計画」	を検討する
67 卒業演習 発表会でクラス全員の「介護計画」	を検討する
68 卒業演習 発表会でクラス全員の「介護計画」	を検討する
69 卒業演習 発表会でクラス全員の「介護計画」	を検討する
70 卒業演習 発表会でクラス全員の「介護計画」	を検討する
71 「介護計画」を練り直す (再検討)	個人
72 「介護計画」を練り直す (再検討)	個人
73 「介護計画」を練り直す (再検討)	大グループ
74 「介護計画」を練り直す (再検討)	大グループ
75 卒業演習 記録集の原稿が完成する	
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座第9巻 介護過程 中央法規</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 平常点 (出席点、演習態度等) と、提出課題の内容を総合し 評価する。尚、その配分は6 : 4を基準とする。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可</p>

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 介護総合演習 I	配当学年・時期 1年前期・後期	授業形態 演習	時間数 (単位数) 60 (2)	授業回数 30
担当教員 黒田 英敏 富塚 稔 伊藤 義晃 平間 千絵 硯 明美 石崎 美幸 長井 瑞希	実務経験 有 有 有 無 有 有 有	実務経験の概要 黒田：社会福祉協議会在宅福祉課にて社会福祉士、介護支援専門員として高齢者福祉の実務に携わっていた。 富塚：障害者支援施設において介護福祉士として、介護（生活支援）に携わっていた 伊藤：介護老人福祉施設において介護福祉士として、介護業務に従事していた。 硯：障害者支援施設において介護福祉士として介護業務に従事していた。 石崎：看護師として、訪問看護ステーション、認知症対応型共同生活介護などの在宅サービスの実践に携わっていた。 長井：認知症対応型共同生活介護で、介護福祉士として介護業務に従事していた。		

[授業の目的・ねらい]

- ・ 専門科目で得た基本的な知識・技術を実習を通じて実践するための具体的な方法を学ぶ。
- ・ 個々の学生が自信を持って実習に望めるようになる。
- ・ 実習での実践内容を分析・考察し、自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理性を養う。

[授業全体の内容の概要]

- ・ 専門科目で学んだことを実習先で役立てられるよう、実習に先立って必要な準備を行う。
- ・ 実習場面を想定し必要な準備を行う。また実習中の実践・記録等に即した事前準備を行う。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

- ・ 居宅・通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像を整理・理解でき、介護福祉士としての役割を明確化できる。
- ・ 他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法やマナーを習得する。
 - ・ 実習イメージを膨らませ、自信の目標や学習課題を言語化・明確化できる。

[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 実習とは何か
- 2 介護活動の場と介護の特性 多様なニーズと介護サービスを理解する
- 3 多様な福祉サービスの理解① 施設訪問準備 施設を理解する
- 4 施設訪問による① 多様な福祉サービスの理解② 介護高齢者福祉施設の理解
- 5 施設訪問による② 多様な福祉サービスの理解③ 地域密着型施設の理解
- 6 施設訪問による③ 多様な福祉サービスの理解④ 介護高齢者保健施設の理解
- 7 施設訪問による④ 多様な福祉サービスの理解⑤ 障害者支援施設の理解
- 8 介護実習 I ①に向けての準備① 多様な福祉サービスの理解⑥ 在宅関連サービス
- 9 介護実習 I ①に向けての準備② 多様な福祉サービスの理解⑦ 施設関連サービス
- 10 介護実習 I ①に向けての準備③ 介護実習理解① 介護福祉士の職場・職域の理解
- 11 介護実習 I ①に向けての準備④ 介護実習理解② 介護福祉士の具体的業務の理解
- 12 介護実習 I ①に向けての準備⑤ 介護実習理解③ 関連職種の理解と連携
- 13 介護実習 I ①に向けての準備⑥ コミュニケーション・マナー・接遇
- 14 介護実習 I ①に向けての準備⑦ 実習目標とグループワーク
- 15 介護実習 I ①に向けての準備⑧ 事前訪問準備と事前訪問
- 16 介護実習 I ①に向けての準備⑨ 記録① 観察記録の方法①
- 17 介護実習 I ①に向けての準備⑩ 記録② 観察記録の方法②
- 18 介護実習 I ①に向けての準備⑪ 介護福祉士の職業倫理① 実習仕行会
- 19 介護実習 I ①のまとめと振り返り① 実習記録の整理 実習報告自己作成
- 20 介護実習 I ①のまとめと振り返り② 実習報告自己作成
- 21 介護実習 I ①のまとめと振り返り③ クラス内実習報告会
- 22 介護実習 I ②に向けての準備① 介護実践の展開と実習① 実習目標とエビデンスケア
- 23 介護実習 I ②に向けての準備② 事前訪問準備と事前訪問
- 24 介護実習 I ②に向けての準備③ 介護実践の展開と実習② エビデンスケアと疾患理解

コマ数

- 25 介護実習Ⅰ②に向けての準備④ 実習カンファレンスの準備①
- 26 介護実習Ⅰ②に向けての準備⑤ 実習カンファレンスの準備② 介護福祉士の職業倫理②
- 27 介護実習Ⅰ②に向けての準備⑥ 多職種連携 実習壮行会
- 28 介護実習Ⅰ②のまとめと振り返り① 実習記録の整理 実習報告自己作成
- 29 介護実習Ⅰ②のまとめと振り返り② 実習報告自己作成
- 30 介護実習Ⅰ②のまとめと振り返り③ クラス内実習報告会

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座 第2版
第10巻 介護総合演習・介護実習
中央法規

[単位認定の方法及び基準]

平常点（出席点、演習態度）と提出物を総合し評価する尚、その配分は6：4を基準とする。

100～80点	優	69～60点	可
79～70点	良	59点以下	不可

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 介護実習Ⅰ・Ⅱ	配当学年・時期 1年前期・後期	授業形態 実習	時間数 (単位数) Ⅰ 90 (2) Ⅱ 135 (3)	授業回数 75
担当教員 黒田 英敏 富塚 稔 伊藤 義晃 平間 千絵 硯 明美 石崎 美幸 長井 瑞希	実務経験 有 有 有 無 有 有 有	実務経験の概要 黒田：社会福祉協議会在宅福祉課にて社会福祉士、介護支援専門員として高齢者福祉の実務に携わっていた。 富塚：障害者支援施設において介護福祉士として、介護（生活支援）に携わっていた。 伊藤：介護老人福祉施設において介護福祉士として、介護業務と相談援助業務に従事していた。 硯：障害者支援施設において介護福祉士として介護業務に従事していた。 石崎：看護師として、訪問看護ステーション、認知症対応型共同生活介護などの在宅サービスの実践に携わっていた。 長井：認知症対応型共同生活介護で、介護福祉士として介護業務に従事していた。		
[授業の目的・ねらい] <p>○介護実習Ⅰ・Ⅱにおいては個々の生活のリズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>本校においては介護実習を介護実習Ⅰと介護実習Ⅱに区分して実施する。また介護実習ⅠはさらにⅠ-①とⅠ-②に区分し、Ⅰ-①を複数の施設・事業を実習することによる多様な利用者の方の理解を重点に実習し、Ⅰ-②では1施設において介護技術の確認に重点をおいた実習を行う。</p>				
[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法] 別紙 旭川福祉専門学校介護実習計画に基づき実施する				
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座 第2版 第10巻 介護総合演習・介護実習 中央法規		[単位認定の方法及び基準] 実習時間8割の出席と実習評価に、実習態度を考慮し評価する。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可		

旭川福祉専門学校介護福祉科

令和5年度介護実習計画

「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正（平成19年12月5日）による、介護福祉士養成課程カリキュラムに則った介護実習を行う。このうち令和5年度に実施する実習は、令和5年度入学生については、見学実習、第一期介護実習（介護実習Ⅰ－①）、第二期介護実習（介護実習Ⅰ－②）を行い、令和4年度入学生は第三期介護実習（介護実習Ⅱ）を実施する。

また、介護福祉士として相談支援事業の理解を深めることは必要であり、道地域生活支援事業実習（障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業で特に専門性の高い施設への訪問等）を本校独自の実習として行う。

令和5年度の実施日程は下記のとおり行う。

	実習の種類	実習期間	日数	備考
令和5年度入学生	見学実習	令和5年5月9日(火) ～5月12日(金)	4日間	各福祉施設
	第一期介護実習	令和5年8月28日(月) ～9月9日(土)	12日間 (90時間)	実習Ⅰ－①
	第二期介護実習	令和5年11月20日(月) ～12月16日(土)	24日間 (180時間)	実習Ⅰ－② (相談員業務実習を含む)
令和4年度入学生	第三期介護実習	令和5年6月19日(月) ～7月22日(土)	30日間 (225時間)	介護実習Ⅱ
	道地域生活支援事業実習	令和5年10月13日(金)	1日間 (7.5時間)	介護実習Ⅱ

A 介護実習

1. 介護実習の目的

(1) 利用者の生活の場である多様な介護現場において、個々の利用者の生活リズムや個性を理解した上で個別ケアを理解し、利用者及び家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。（介護実習Ⅰ）

(2) 1つの施設・事業者において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他の科目で学習した知識及び技術等を総合して、具体

的な介護サービスの提供の基本となる実践力を修得する。(介護実習Ⅱ)

上記の目的のため介護実習Ⅰと介護実習Ⅱに区分して実施する。

2. 介護実習の内容

(1) 実習の内容及び指導方針は文部科学省高等教育局長・厚生労働省社会・援護局長連名通知(平成20年3月28日 19文科高第918号・社援発第0328002号)に沿って行う。なお、本校では介護実習ⅠをさらにⅠ-①、Ⅰ-②に区分し、介護実習Ⅰ-①、介護実習Ⅰ-②、介護実習Ⅱの3段階に分けて行う。また第二段階において、生活相談員、あるいは介護老人保健施設においては支援相談員業務の実習を45時間行う。

(2) 第一段階(介護実習Ⅰ-①)

人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を通して学習する。また実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。

(3) 第二段階(介護実習Ⅰ-②)

次の第三段階(介護実習Ⅱ)での介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他の職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

(4) 第三段階(介護実習Ⅱ)

「介護過程」で学んだ思考のプロセスを実際の利用者を受け持つことにより実践する。その際には、個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開能力を育成する。その際には利用者や実習指導者を始め介護職員と相談しながら、立案した介護計画に基づいた介護を提供し、自ら行った介護実践の評価や計画の修正が行えるようにする。

3. 介護実習を行う施設・事業等及び方法等

(1) 介護実習を行う施設・事業等(以下「介護実習施設等」)は、昭和62年厚生省告示第203号の定めにより、特定の施設・事業等の種別に片寄ることなく各種施設及び居宅サービスにて行う。

(2) 第一段階(介護実習Ⅰ-①)を行う介護実習施設等の種別は、多様な介護サービスを理解するといった実習の目的を考え、高齢者介護の実習施設等として訪問介護(ホームヘルプサービス)、通所介護(デイサービス)、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能型居宅介護、養護老人ホームに、また障害者介護の実習施設として障がい者支援施設に願います。

第一段階の介護実習は2週間で2～4種別の介護実習施設等にて実習し、実習形態は住込実習または通勤実習とする。

第二段階（介護実習Ⅰ-②）を行う介護実習施設等の種別は、介護技術の確認や多職種協働、関係機関との連携といった目的から、高齢者介護の実習施設等として特別養護老人ホーム、介護老人保健施設に、また障がい児者介護の実習施設として重症心身障害児者施設、障がい者支援施設に願います。

第二段階の介護実習は1施設において4週間実習し、実習形態は住込実習または通勤実習とする。

第三段階（介護実習Ⅱ）を行う介護実習施設等の種別は、介護計画の作成、実施、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開する目的から、高齢者介護の実習施設等として特別養護老人ホーム、介護老人保健施設に、また障がい児者介護の実習施設として重症心身障害児者施設、障がい者支援施設に願います。

第三段階の介護実習は1施設において5週間実習し、実習形態は住込実習または通勤実習とする。

(3)実習施設の地域は、週1回以上の巡回指導が可能な範囲とする。

4. 介護実習を行う時期と期間

(1)介護実習の総合計時間は495時間（11週）とする。

(2)第一学年前期に事前実習として介護実習施設を含め各種福祉施設の見学実習を行う。

(3)実習の時期は三段階の実習内容に対応すべく、三期にわたって実施する。第一期は、第一段階に対応するもので、第一学年次に行う。第二期は、第二段階に対応するもので、第一学年次に行う。第三期は、第三段階に対応するもので、第二学年次に行う。

B. 実習指導・巡回指導

1. 実習に必要な事項の指導は、教科目「介護総合演習」の時間に行う。

2. 実習期間中は、教職員が定期的に巡回指導にあたる。

2. 実習生について

令和5年度実習生の概要は下記のとおりであります。

介護福祉科2年生（31期生） 46名

うち、外国人留学生 22名

介護福祉科1年生（32期生） 54名

うち、外国人留学生 34名

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 こころとからだのしくみ	配当学年・時期 1年前期	授業形態 講 義	時間数 (単位数) 30 (2)	授業回数 15
担当教員 平間 千絵 石崎 美幸	実務経験 有 有	実務経験の概要 平間：精神神経科で臨床心理士として5年間の心理業務及び、本校学生相談室における心理相談業務に携わる。 石崎：看護師として、訪問看護ステーション、認知症対応型共同生活介護などの在宅サービスの実践に携わっていた。		
<p>[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間としての基本的欲求や生命維持のしくみ 利用者の身支度や食事等の生活を支える介護実践の関係を学ぶ</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] こころのしくみ、からだのしくみ、利用者の生活に必要な介護実践に関する知識の習得</p>				
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の欲求とは・・・マズローの欲求階層説、自己実現 2 こころのしくみの基礎①・・・学習のしくみ、記憶のしくみ 3 こころのしくみの基礎②・・・感情・情動のしくみ、意欲・動機付けのしくみ、適応のしくみ 4 からだのしくみの基礎① 5 からだのしくみの基礎② 6 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・・ターミナル 7 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・・バイタルサイン 8 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 9 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ・・・寝具の衛生管理 10 移動に関連したこころとからだのしくみ・・・ボディメカニクスの理解 11 身支度に関連したこころとからだのしくみ・・・着脱の意義 衣類の種類と選択 12 食事に関連したこころとからだのしくみ・・・食事援助の基本理解と摂食メカニズム 13 排泄に関連したこころとからだのしくみ・・・排泄の持つ意味と介助の原則 排便のしくみ 14 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・・・入浴の意義と効果・入浴時の事故と注意 15 振り返り <p>試験 (ペーパーテスト)</p>				
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座第11巻 こころとからだのしくみ 中央法規		[単位認定の方法及び基準] 期末テスト (9割) 出席点 (1割) を総合し評価する。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可		

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 心理学	配当学年・時期 1年前期	授業形態 講義	時間数 (単位数) 30 (2)	授業回数 15																														
担当教員 平間 千絵	実務経験 有	実務経験の概要 精神神経科外来において臨床心理士として5年間の心理業及び本校学生相談室の専属心理士としての相談業務に従事している。																																
<p>[授業の目的・ねらい] 心理学理論による人間理解と対人援助に必要な心理学的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容概要] 臨床心理学を中心に、心理臨床に関する知識を深める。 心理的評価法・援助技法の概要。社会福祉の援助活動と心理学理論の関連。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 心理学を通して客観的に人間理解を深める。</p>																																		
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 オリエンテーション</td> <td>授業の進行についての説明、自己理解のためのミニテスト</td> </tr> <tr> <td>2 心理学とは何か</td> <td>心理学の歴史、概論</td> </tr> <tr> <td>3 心のしくみの理解</td> <td>パーソナリティ理論</td> </tr> <tr> <td>4 心のしくみの理解</td> <td>フラストレーション、コンフリクト、適応機制、</td> </tr> <tr> <td>5 精神疾患の理解</td> <td>不安障害①</td> </tr> <tr> <td>6 精神疾患の理解</td> <td>不安障害②</td> </tr> <tr> <td>7 精神疾患の理解</td> <td>気分障害</td> </tr> <tr> <td>8 精神疾患の理解</td> <td>統合失調症</td> </tr> <tr> <td>9 精神疾患の理解</td> <td>人格障害、心身症</td> </tr> <tr> <td>10 精神疾患の理解</td> <td>摂食障害、性に関する障害</td> </tr> <tr> <td>11 発達障害の理解</td> <td>自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害、知的障害</td> </tr> <tr> <td>12 人間理解のための援助技法</td> <td>心理的援助のためのアセスメントについて</td> </tr> <tr> <td>13 人間理解のための援助技法</td> <td>心理検査(知能検査・性格検査)の実際</td> </tr> <tr> <td>14 心理的援助技法の概要</td> <td>心理療法</td> </tr> <tr> <td>15 ふりかえり ペーパーテスト</td> <td></td> </tr> </table>					1 オリエンテーション	授業の進行についての説明、自己理解のためのミニテスト	2 心理学とは何か	心理学の歴史、概論	3 心のしくみの理解	パーソナリティ理論	4 心のしくみの理解	フラストレーション、コンフリクト、適応機制、	5 精神疾患の理解	不安障害①	6 精神疾患の理解	不安障害②	7 精神疾患の理解	気分障害	8 精神疾患の理解	統合失調症	9 精神疾患の理解	人格障害、心身症	10 精神疾患の理解	摂食障害、性に関する障害	11 発達障害の理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害、知的障害	12 人間理解のための援助技法	心理的援助のためのアセスメントについて	13 人間理解のための援助技法	心理検査(知能検査・性格検査)の実際	14 心理的援助技法の概要	心理療法	15 ふりかえり ペーパーテスト	
1 オリエンテーション	授業の進行についての説明、自己理解のためのミニテスト																																	
2 心理学とは何か	心理学の歴史、概論																																	
3 心のしくみの理解	パーソナリティ理論																																	
4 心のしくみの理解	フラストレーション、コンフリクト、適応機制、																																	
5 精神疾患の理解	不安障害①																																	
6 精神疾患の理解	不安障害②																																	
7 精神疾患の理解	気分障害																																	
8 精神疾患の理解	統合失調症																																	
9 精神疾患の理解	人格障害、心身症																																	
10 精神疾患の理解	摂食障害、性に関する障害																																	
11 発達障害の理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害、知的障害																																	
12 人間理解のための援助技法	心理的援助のためのアセスメントについて																																	
13 人間理解のための援助技法	心理検査(知能検査・性格検査)の実際																																	
14 心理的援助技法の概要	心理療法																																	
15 ふりかえり ペーパーテスト																																		
<p>[使用テキスト・参考文献] テキストは使用せず、随時資料を配付する。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 期末テスト (9割) 出席点 (1割) を総合し評価する。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可</p>																																

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 医学・医療の知識	配当学年・時期 1年後期 2年前期	授業形態 講 義	時間数 (単位数) 60 (4)	授業回数 30																											
担当教員 大坪陽子	実務経験 有	実務経験の概要 看護師として5年余病棟、外来、在宅看護等の多方面での臨床経験があり、その後大学院にて公共健康医学を研修する傍ら専門学校、大学の看護学部にて看護学を担当され現在に至っています																													
<p>[授業の目的・ねらい] 介護・福祉の実践に関連する基本的な医学的知識を身に着ける</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体の構造と機能、介護・福祉に関連する主な疾患について講義・ワークショップを行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 医学的知識を習得するための勉強方法を習得・実践できる 国家試験で求められる医学的知識のレベルを感覚的に把握することができる 講義中で紹介する事項のうち、少なくとも2つの疾患・病態について、自分の言葉で説明することができる</p> <p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 (1年後期分)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 85%;">医事法制</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">講義</td> </tr> <tr> <td>2-4</td> <td>グループワーク (教科書事例1-9)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5-14</td> <td>発表・補足</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>(2年前期分)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1-5</td> <td style="width: 85%;">国試過去問チャレンジ</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>(中間試験)*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間試験解説</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8-14</td> <td>教科書 第1章～第10章</td> <td style="text-align: right;">講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>* 中間試験は講義内で行う。欠席・赤点も追試は行わない。事情がある者は申し出ること。</p>					1	医事法制	講義	2-4	グループワーク (教科書事例1-9)		5-14	発表・補足		15	まとめ		1-5	国試過去問チャレンジ	演習	6	(中間試験)*		7	中間試験解説		8-14	教科書 第1章～第10章	講義	15	まとめ	
1	医事法制	講義																													
2-4	グループワーク (教科書事例1-9)																														
5-14	発表・補足																														
15	まとめ																														
1-5	国試過去問チャレンジ	演習																													
6	(中間試験)*																														
7	中間試験解説																														
8-14	教科書 第1章～第10章	講義																													
15	まとめ																														
<p>[使用テキスト・参考文献] 弘文堂 介護福祉のための医学</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] レポート課題と中間テスト、期末試験を総合し評価する。尚、その配分は2：3：5を基準とする</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">100～80点 優</td> <td style="width: 50%;">69～60点 可</td> </tr> <tr> <td>79～70点 良</td> <td>59点以下 不可</td> </tr> </table>			100～80点 優	69～60点 可	79～70点 良	59点以下 不可																							
100～80点 優	69～60点 可																														
79～70点 良	59点以下 不可																														

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 医療的ケア I	配当学年・時期 1年後期・2年生前期	授業形態 講義	時間数 (単位数) 78 (5)	授業回数 38
担当教員 石崎 美幸	実務経験 有	実務経験の概要 看護師として14年間看護業務経験の中では手術室看護等にも携わる。平9年より17年間は地域のクリニックにて看護主任として外来業務および在宅医療に携わる		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識、技術を習得する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識をふまえ、安全、適切な実施手順のもと、喀痰吸引、経管栄養、救急蘇生法について学習する。 医療的ケアの実施に伴い必要となる健康状態の把握とその観察方法、清潔行為、感染予防、滅菌、消毒について学習する。 				
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療的ケアとは 2 法制度について 3 安全な療養生活 4 救急蘇生① 5 救急蘇生② 6 清潔保持と感染予防 7 療養環境の清潔、消毒法 8 健康状態の把握 (バイタルサイン) 9 急変状態について 10 呼吸のしくみとはたらき 11 いつもと違う呼吸状態 12 喀痰吸引とは 13 人口呼吸器と吸引 14 子どもの吸引について 15 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 16 呼吸器系の感染と予防 17 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 18 急変・事故発生時の対応と事前対策 19 器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 20 喀痰吸引に伴うケア 21 報告・記録 22 消化器系のしくみとはたらき 23 咀嚼と嚥下のしくみ 24 消化・吸収と消化器系の症状 25 経管栄養とは 26 注入する内容に関する知識 27 経管栄養実施上の留意点 28 子どもの経管栄養 29 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 30 経管栄養に係る感染と予防 				

コマ数 3 1 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 3 2 急変・事故発生時の対応と事前対策 3 3 器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 3 4 経管栄養の技術と留意点 3 5 経管栄養に必要なケア 3 6 報告・記録 3 7 喀痰吸引実施手順（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部） 3 8 経管栄養実施手順（胃ろう・腸ろう・半固形栄養・経鼻経管栄養） 試験	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座 15 巻 中央法規	[単位認定の方法及び基準] 学期末の試験（ペーパー試験）と平常点（出席点、レポート等）を総合し評価する。尚、その配分は 7 : 3 を基準とする。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 療育音楽	配当学年・時期 1年 前期	授業形態 演習	時間数 (単位数) 30 (1)	授業回数 15
担当教員 成田 潤子	実務経験 有	実務経験の概要 音楽教室において、幼児から高齢者までの様々な年齢・様々な経験を持つ人々の演奏指導にあたる。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士としてのコミュニケーション能力を高める為に自己表現、自己開示力の充実をはかる。 ・障がい者福祉、高齢者福祉の現場で求められている音楽活動について理解する。 <p>[授業全体の内容概]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム運動・発声の基礎・手話歌・合唱等様々な音楽活動を体験し、「音楽の力」とその力の福祉現場での必要性、役割について考える。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話歌、合唱、ハンドベルアンサンブルの作品を完成する。 ・混声合唱曲「大地讃頌」を全員の心を合わせる事で完成させる。 				
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 高齢者福祉、障がい者福祉の現場で実施されている音楽活動について理解し、授業2回目以降からの活動の重要性を把握する。</p> <p>2 基礎的な表現手段を伸ばす活動 = ラジオ体操・発声の基礎・輪唱</p> <p>3～5 積極性を高める活動 = 上記に加え、手話歌・リズム遊び・「大地讃頌」譜読み (身体の緊張と強緩を時間・強弱・空間の色々な変化に適合させる)</p> <p>6～10 集中力と協調性を高める活動 = 輪唱、合唱、手話歌・ハンドベルアンサンブル・「大地讃頌」パート練習 (グループ活動を通し、コミュニケーションの重要性を考える)</p> <p>11～14 創造力を高める活動 = 手話歌・ハンドベルアンサンブル・「大地讃頌」の歌詞の意味をよく理解し、音楽的表現を深める</p> <p>15 創作した作品の発表と「大地讃頌」の仕上げ 試験</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>お年寄りと楽しむ楽譜集 音の出会い 石川音楽療法研究所 ドレミ楽譜出版社 必要に応じてプリントを配布する</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>受講態度 30% 実技試験 70%</p>		

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 コンディショニング(第1部) 東川スタイル (第2部)	配当学年・時期 1年 後期	授業形態 演 習	時間数 (単位数) 30 (1)	授業回数 15
<p>担当教員 中島秀雪 (R-body) 小野寺未来 (R-body) (コンディショニング (第1部) 担当)</p> <p>専任教員 (東川スタイル (第2部) 担当)</p>	<p>実務経験 有</p>	<p>実務経験・資格の概要</p> <p>中島:</p> <p>【実務関係】 R-body Academy 講師 (2014-現) 東京スポーツ・レクリエーション専門学校教育課程編成委員会 委員 (2018-現) 呉竹鍼灸柔整専門学校 柔道整復科 特別講義 講師 (2020) 東京柔道整復専門学校 トレーナー科 講師 (2019) ラオスサッカー協会専任スタッフ・代表選手向けセミナー講師 (2017) ベトナムサッカー協会専任スタッフ・代表選手向けセミナー講 師 (2017) 日本オリンピック委員会強化スタッフ:アイスホッケー競技 (2005-2014) パーク 24 柔道部トレーナー (2014-2017) 神宮シンクロナイズドスケーティング Ice Messengers トレー ナー (2016-2019)</p> <p>【資格関係】 R-Conditioning Coach 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー NASM-PES (National Academy of Sports Medicine 公認パフ ォーマンスエンハンスメントスペシャリスト) NSCA-CPT (National Strength and Conditioning Association 公認パーソナルトレーナー) 社団法人すごい会議認定社内コーチ</p> <p>小野寺</p> <p>【実務関係】 丸の内朝大学講師 (2018) 聖路加メディローカス派遣トレーナー (2018-2022) 星のや東京派遣トレーナー (2018-2022) Aqua sports & spa 派遣トレーナー (2018-2020) フォレックス リーグ バレーボール派遣トレーナー (2016-2022) 新体操クラブ TESORO トレーナー (2018-2020)</p> <p>【資格関係】 R-Conditioning Coach NASM-PES (ナショナルアカデミーオブスポーツメディシン公認 パフォーマンスエンハンスメントスペシャリスト) FMS Level 1, 2 中学校教諭一種免許状 (保健体育) 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)</p>		

[授業の目的・ねらい]

コンディショニング：

Conditioning Coach Mentorship Program 介護コース

介護士として働く人々が、ヒトのカラダの構造や機能的なカラダをつくるための原理原則を理解し、実際に指導できるところまでを一貫して学ぶコースです。

“介護士自身の機能改善とケガをしないための知識や運動方法を身につけること”

“利用者様の運動機能を改善できる介護士になること”を目指します。

東川スタイル：

本校の地元、東川町は「東川スタイル」と称されているライフスタイルを実践している。

Life&Work（自然なスタイルで暮らしと地域をつくる）の取組と、Public&Commons（共感と共創が育てる“らしさ”＝自分ごと・みんなごと・世の中ごとの好循環）の取組を学び、福祉従事者としての在り方としての「東川スタイル」を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

コンディショニング：上記同様

東川スタイル：実際に「東川スタイル」を実践している住民の方からその実践内容を聞き、また体験させていただく。東川に学ぶ学生として自身のライフスタイルを探求する。将来、福祉従事者としての生き方の指標として自分なりの「東川スタイル」を創造する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

コンディショニング：以下①から⑤の要素を授業のなか学んでいきます。

①機能的動作の原理原則（講義）

ヒトのカラダの機能を向上させるための原理原則について学びます。

②構造解剖学（講義）

カラダの構造や関節の動きについて学びます。

③エクササイズ演習

7つのエクササイズを通じて構造解剖学や機能的動作の5原則の理解を深めます。

④コーチングスキル（実践）

運動指導において重要な「相手へ伝わるように伝える」コーチングスキルを学びます

⑤実践運動指導

上記内容を踏まえ、運動指導の実践練習を行います

東川スタイル：

①実践者から「東川スタイル」について学び、理解する

②実践者との協働実践のなかから「東川スタイル」を実践する

③今後の専門職としての働き方と生活者との生き方に「東川スタイル」をリフレクションする

[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]

第1部 コンディショニング

0 特別講演

- | | | |
|---|---------------------------------------|--------|
| 1 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース① |
| 2 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース② |
| 3 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース③ |
| 4 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース④ |
| 5 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース⑤ |
| 6 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース⑥ |
| 7 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース⑦ |
| 8 | Conditioning Coach Mentorship Program | 介護コース⑧ |

9～（コマ数は調整中） フォローアップ講義

第2部 東川スタイル

- 1 「東川スタイル」Life&Work（自然なスタイルで暮らしと地域をつくる）の取組を実践されている町民の方から学ぶ
- 2 「東川スタイル」Life&Work（自然なスタイルで暮らしと地域をつくる）の取組を実践されている町民の方との協働実践のなかから「東川スタイル」を学ぶ①
- 3 「東川スタイル」Life&Work（自然なスタイルで暮らしと地域をつくる）の取組を実践されている町民の方との協働実践のなかから「東川スタイル」を学ぶ②
- 4 「東川スタイル」Public&Commons（共感と共創が育てる“らしさ” - 自分ごと・みんなごと・世の中ごとの好循環）の取組を町内の行政、企業から学ぶ
- 5 「東川スタイル」Public&Commons（共感と共創が育てる“らしさ” - 自分ごと・みんなごと・世の中ごとの好循環）の取組を町内の行政、企業との協働実践のなかから「東川スタイル」を学ぶ①
- 6 「東川スタイル」Public&Commons（共感と共創が育てる“らしさ” - 自分ごと・みんなごと・世の中ごとの好循環）の取組を町内の行政、企業との協働実践のなかから「東川スタイル」を学ぶ②

[使用テキスト・参考文献]

第1部 コンディショニング

Conditioning Coach Mentorship Program

介護コース テキスト

第2部 東川スタイル

『東川スタイル』玉村雅敏・小島敏明編著
産学社

[単位認定の方法及び基準]

第1部 コンディショニング

試験と平常点（出席点、授業態度等）を総合し評価する。
両分野の評点をそれぞれ50点満点とし、合わせて評価する。
100～80点 優 69～60点 可
79～70点 良 59点以下 不可
※全講座へ出席した場合に限り受講修了証を発行

第2部 東川スタイル

試験と平常点（出席点、授業態度等）を総合し評価する。
両分野の評点をそれぞれ50点満点とし、合わせて評価する。
100～80点 優 69～60点 可
79～70点 良 59点以下 不可

授 業 概 要 (シラバス)

授業の科目名 地域支援活動Ⅰ	配当学年・時期 1年 前後期・2年前期	授業形態 演習	時間数 (単位数) 135 (4)	授業回数 68
担当教員 専任教員	実務経験	実務経験の概要		
<p>[授業の目的・ねらい] 地域における高齢者や障がい者の方々と直接的・主体的なふれあいを通し、地域福祉の実践力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容概] 地域生活支援センターを拠点とし、東川町や旭川市の福祉施設に出掛けていき、アクティビティ（「作業療法」「耕生活動」「動物介在療法」「介護予防」）等の地域支援活動を実践する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 地域支援活動の実践から、福祉従事者として必要な地域支援に関わる知識・技術そして感性を養う。</p>				
<p>[授業計画及び各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1年前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉施設を学ぶ ・地域支援活動を実践するにあたっての基礎を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の必要性 ・地域の現状を理解する ・地域を支援する基本について学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の原則 ・地域支援の方法 ・地域支援の過程と評価 <p>1年後期・2年前期</p> <p>グループに分かれての実践から地域支援を学ぶ</p> <p>※1クラスを活動グループに分かれて展開する。活動内容により1グループを10名程度で構成し、それぞれのグループを教員1～2名が担当する。</p> <p>活動内容 (アクティビティ)</p> <p>以下の様々なアクティビティをとおして地域の方との交流を図り、地域生活を支援する活動を学ぶ。</p> <p>[グループ活動例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 動物介在療法 (ポニーの飼育と環境整備)、施設訪問 ◎ 地域の高齢者との交流・ボランティア、作業療法 (ドライフラワー)、耕生活動 (花栽培・園芸療法) ◎ 地域福祉のニーズを学ぶ (グループホームの訪問)、作業療法 (バルーンアート) ◎ 地域を知る (東川町)・耕生活動・パラスポーツ国内競技の体験 <p>※なお、これらの活動のまとめとして、地域支援活動Ⅱにおいては、地域支援活動発表会にて活動を発表する。</p>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
		出席点、活動態度を考慮し、目標達成度によって評価する。 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可		